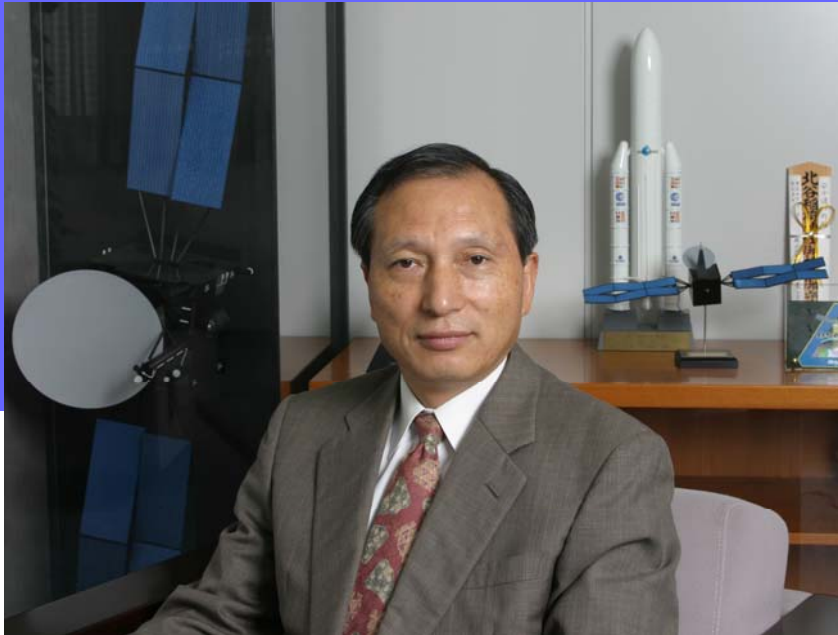


## 世界の衛星企業 CEOに聞く



株式会社放送衛星システム  
代表取締役社長 軍司達男氏



### 軍司社長略歴

昭和 43 年 4 月 日本放送協会入局  
平成 2 年 6 月 同 番組制作局サイエンス番組 プロダクション部長  
平成 9 年 6 月 同 衛星放送局（衛星第2）部長  
平成 10 年 6 月 同 衛星放送局（ハイビジョン）部長  
平成 11 年 6 月 同 番組制作局制作主幹  
平成 13 年 6 月 同 衛星ハイビジョン局長  
平成 15 年 6 月 同 退職  
平成 15 年 6 月 株式会社放送衛星システム 代表取締役社長に就任

（インタビュー担当：本誌編集委員 正源和義）

— 最初に、御社が精力的に取り組んでおられる、放送衛星の安定運用への取組みについてお伺いしたいのですが。

B-SAT 社は、日本で唯一の BS 放送の放送インフラ企業として、BS アナログ放送、BS デジタル放送を安定的に放送していくという重い責任を担っていますので、放送衛星の安定運用は最重要課題です。

現在、放送衛星 BSAT-1a,1b、BSAT-2a,2c、BS-3N の合計 5 機を監視・制御する管制業務と、放送衛星 BSAT-2c に向けてデジタル放送番組を送信するアップリンク業務を行っていますが、放送衛星の安定運用のためには、二つの側面からの取組みが必要と考えています。

一つはより信頼性の高い衛星と地上設備を持つことです。高信頼な個々の設備を調達すると同時に、衛星に予備の中継器を載せたり、主衛星の他に予備衛星を打ち上げたり、衛星管制局やアップリンク局を 2 局（主局及び副局）設置するなど、いわゆるバックアップにも万全を期していくことが重要です。全体として信頼性の高いハードを調達する努力を行っていきます。

もう一つは、設備の操作を行う人間に係わる事柄です。衛星の管制は高度な技術と経験が必要になりますが、B-SAT 社は幸いにも BS 放送開始以来培われてきた通信・放送機構（TAO）の管制技術を引き継いでおります。安定運用のために、この技術を実実に継承して発展させていくことが大切と考えております。



川口衛星管制センター 管制室

また、万が一衛星に障害が起こった場合に備えて、放送の中断を最小限に抑えられるようにバックアップ衛星の緊急立ち上げや中継器の切替えなどの手順書を整備しています。さらに、危機管理マニュアルを社員全員に配布し、危機管理の基本精神、連絡体制、対応手順などについて周知して、日常的な備えを社員に求めています。



— 衛星放送サービスにおける御社の役割についてどうお考えですか。

BS 放送受信普及数はBS アナログ放送とBS デジタル放送をあわせて平成 15 年 3 月末で約 1,651 万件、また BS デジタル放送の受信世帯数は平成 16 年 6 月末で 600 万世帯を越えています。多くの視聴者の方々が安心して BS 放送を視聴できるように、インフラ提供企業の B-SAT 社としましては、衛星 5 機の監視・制御とデジタル放送番組のアップリンクを安定に運用していくことが最大の役割と考えています。さらに、万が一障害が起こった場合には、顧客であります BS 放送事業者、関係機関に、障害経過、原因究明、再発防止などについて迅速にかつ的確な説明責任を果たしていくことも重要と考えております。

B-SAT 社は、顧客である BS 放送事業者の方々や BS 放送を受信する視聴者のみなさまの信頼を失っては成り立たない企業であることを常に念頭に置きながら、緊張感を持って業務を行うように、社員に伝えています。

— 平成 15 年 6 月に 3 代目の社長に就任されましたが、抱負をお聞かせ下さい。

重要なことは、日々の衛星及び地上設備の安定運用や危機管理と共に、委託放送事業者に対して受託放送事業者としてのサービスをより安く提供していくことです。そのため信頼性の高い衛星を低廉な価格で調達すること、より効率的な運用体制で衛星管制及びアップリンク経費のコストダウンを図るなどに全力をあげていきます。

— B-SAT は昨年 10 周年を迎えたとのことですが、これまでの業績、今後の事業についてどうお考えですか。



平成 5 年 4 月に B-SAT 社を設立しましたので、設立から数えますと今年で 12 年目になります。この間、BS 放送の受信普及数は順調に増大しています。これは、B-SAT 社がこれまで行ってきた放送サービス継続の確保に向けた衛星の調達と衛星の安定運用の努力が報われているのだと考えております。

これまでの事業を簡単に述べさせていただきますと、BS アナログ放送については、BSAT-1a と BSAT-1b の衛星 2 機を国際競争入札によって調達して、平成 9 年 8 月 1 日にそれまで BS-3 衛星で行われていた BS アナログ放送サービスを BSAT-1a 衛星に安定的に移行

することができました。平成 12 年 12 月 1 日から開始した BS デジタル放送については、BSAT-2a の打ち上げが遅れたためアナログ用予備衛星の BSAT-1b を利用して放送を開始しましたが、その後 BSAT-2a,2c の打ち上げが成功し現在は BSAT-2c を現用衛星、BSAT-2a を予備衛星として 2 機体制で運用しています。

管制につきましては、平成 9 年 4 月に川口衛星管制センター及び君津衛星管制所を開設して BSAT 衛星の管制業務を開始しています。平成 10 年 11 月には BS-3N の管制業務も行うようになりました。

アップリンクにつきましては、平成 12 年 11 月に BS デジタル放送用アップリンクセンターを完成させ 12 月には運用を開始しております。

今後についてですが、アナログ放送衛星 BSAT-1a の後継機、B-SAT 社では BSAT-3a となっておりますが、この放送衛星局の予備免許が平成 16 年 6 月 9 日に B-SAT 社に交付されました。これにより、B-SAT 社は、BSAT-1a 後継機を運用する受託放送事業者と決まりました。BSAT-1a は平成 19 年に設計寿命を迎えますので、B-SAT 社は平成 19 年の BSAT-3a 打ち上げ、運用開始に向けて、衛星及び地上設備の調達の準備を着実に進めてまいります。



BSAT-3a 放送衛星局の予備免許交付式の様子

— 最後に、仕事を離れた余暇はどのようにお過ごしですか。

社会人になりたての次男と来年社会人になる長女と同居しているせいか、若い人たちの間で評判になっている映画や展覧会なども時間を見つけてできるだけ見ることにしています。最近アニメ映画「イノセンス」を見ました。週末は近くの図書館から学生時代に読み残した古典などを借りて読んだり、運動をしたりして過ごしています。

— ありがとうございました。